

第37回「写真好き」のための定例講演会

日本写真学会 第37回「写真好き」のための定例講演会は、J C I I での『古銀塩乾板の復元例（八幡製鐵所）』に関する講演（日本初の高炉建設と建設に関わった政治家や技術者など多くの方々の現地での写真など貴重な写真の復元についての講演：復元の過程で扱った数多くの写真もご覧頂けます。）を企画しました。

定員は限定30名となっておりますので、参加希望の方はお早めにお申し込み下さい。

【開催日時】 2019年6月11日（火） 14:00～16:00（13:30 受付開始）

【開催会場】：J C I I ビル2階 200会議室

〒102-0082 東京都千代田区一番町 25 番地 JCIIビル 1階

地図：⇒ <http://www.jcii-cameramuseum.jp/map/map.html#>

【プログラム】

第一部：講演「古銀塩乾板の復元（旧官営製鐵所・八幡）」—明治時代の世界遺産の写真がよみがえる—

14:00～15:30

デジタルフォト研究会・日本写真学会幹事
（元セイコーエプソン）岩本 康平氏

コピー機器などなかった時代は写真は大事な保管記録の最先端装置でした。当時の日本にとって製鉄という重要な事業も丁寧に記録、保管されていました。ここでは2009年～2011年に行われた調査、データ復元プロジェクトについて報告いたします。100年以上前の現在のデジタルに引けを取らない解像力、世界遺産登録の決め手の一つとなった様々なメタデータ、日本初かもしれない「写真修整」などプロジェクトの成果をご紹介します。



第二部：日本カメラ博物館特別展「平成のカメラ展」鑑賞（会場案内・説明付き） 15:40～16:00

解説：日本カメラ博物館

平成は31年4月30日をもって終了し、新たな元号が始まります。日本の社会にとってはさまざまな出来事を経た30年間でしたが、カメラや写真の世界においても、その歴史がはじまって以来もっとも大きな変化を遂げた時代といえます。

1839（天保10）年にフランスで実用的な写真術が発表されて以来、感光材料は銀の粒子で画像を形成する銀塩写真が主流でした。しかし、1980年代後半から90年代に電子記録方式のカメラが実用化されると急速に進化し、2002（平成14）年には生産数量でデジタルカメラがフィルムカメラを追い越すほどの飛躍をみせました。カメラは「1家に1台」から「1人1台」の時代へと突入し、さらにフルサイズ撮像素子やミラーレスカメラの発売、そしてカメラ付携帯電話やスマートフォンの普及によって、人々のカメラへの接し方や、写真撮影、保存、鑑賞方法に至るまで、過去にない大きな変革を遂げました。今回の特別展では、カメラ史の大きな変革期であった「平成」という時代に登場した数々のカメラを紹介し、カメラ技術の変遷を振り返ります。



【参加資格】 日本写真学会個人会員・学生

◎：申込時までに入会申請して頂ければ、個人会員扱いで参加可能となります **【参加費無料です！】**

【定員】 30名限定（参加される方は必ず事前に申込をお願いします。）

【申し込み】 6月4日（火）までに日本写真学会 HP よりお申込みください。

<http://spstj.org/>

【問い合わせ】 一般社団法人日本写真学会 事務局「写真好き」のための講演会 係

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 TEL：03-3373-0724 FAX：03-3299-5887 E-mail：spstj@pht.t-kougei.ac.jp